# 北国街道と西近江路の石造文化

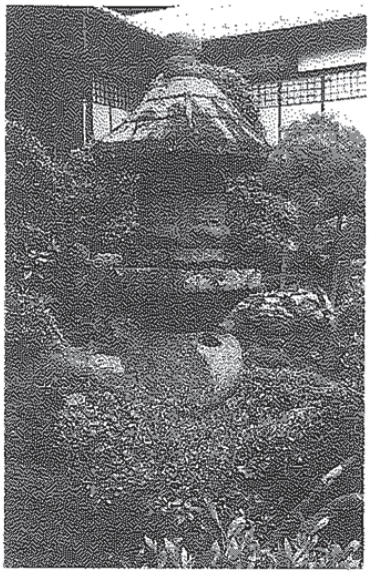
**北国街道**　北陸と近江をつなぐ主要な道です。彦根の鳥居本で中山道と分かれ、米原、長浜、虎姫、木之本を経て、県境の栃ノ木峠を越え福井県に通じています。

この街道にそって、石造文化を訪ねてみましょう。

**米原から長浜へ**

**〈青岸寺〉**　米原駅前の国道８号線を横断してまっすぐ山手へ 300ｍ行きますと、青岸寺（曹洞宗）の山門につきます。この寺の庭園は、大小約 600個の石を1000㎡の広々としたところに配した枯山水で有名です。江戸初期に彦根藩士の人が造ったといわれています。

庭園に、一風変った石燈籠が建っています。織部（おりべ）燈籠といい、桃山時代の茶人、古田織部が考案した燈籠です。竿にあたるところを方形につくり、上部に左右に張出した半円部を作り出し、竿の多くは地面に生けこんでいます。竿を十字架に見立てて、キリシタン燈籠とも呼ばれています。半円部のところに、ローマ字の模様があったり、その上にマリアに似た仏像様のものが彫られています。ローマ字は、ＬｈｑとかＩＨＳとかいわれ、いまだに解読されず、意味が不明です。


織部燈籠（米原町米原・青岸寺）

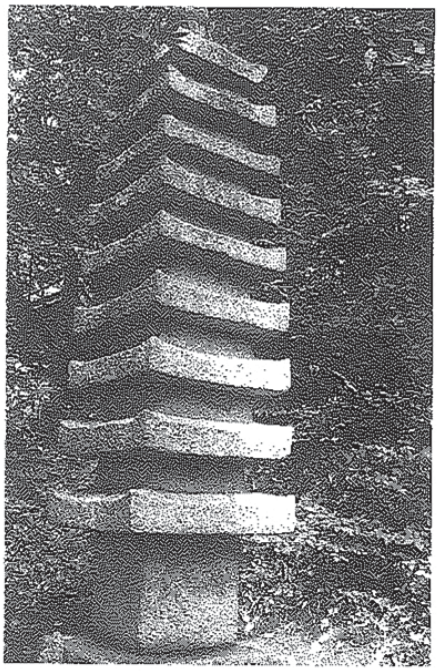
**〈蓮華寺〉**

米原高校の横を通り、山あいの道を行くと番場につきます。東の山すそに蓮華寺が建っています。

本堂の横に建つ宝篋印塔は鎌倉時代のもので、この寺を開いた土肥三郎元頼の墓といわれています。笠の隅飾を三つの孤につくった大型の塔です。

宝篋印塔（米原町番場・蓮華寺）

番場から中山道を東に行き、国道21号線に出る手前50ｍのところを右折した森に八坂神社があります。元享３(1323)年の銘をもつ九重塔が西向きに建っています。高さは４ｍ、基礎の正面にのみ三茎蓮華の文様を刻んでいます。湖北における鎌倉後期の層塔で、完全


九重層塔（米原町三吉・八坂神社）



財団法人　滋賀県文化財保護協会

な姿で残っています。

**浅井から木之木へ**

**〈素盞嗚命神社〉**　北国街道からやや東にそれますが、浅井町上野の集落の中央に素盞嗚命神社があります。こんもりと茂った森の中に本殿が建っています。境内には町指定天然記念物の「藤の老木」があります。その前に二基の石塔が並び、右が五輪塔、左が足利尊氏の寄進といわれる宝篋印塔です。

五輪塔の屋根は勾配が急で、両端のそりが目立ちます。鎌倉時代後期のものです。宝篋印塔も各部に古さが見られ、五輪塔より少し古く造立したものです。

宝篋印塔・五輪塔（浅井町上野・素盞嗚命神社）

**〈大吉寺〉**　浅井町野瀬にあり、杉木立の中にすっぽりと埋まったような、静寂な寺院です。

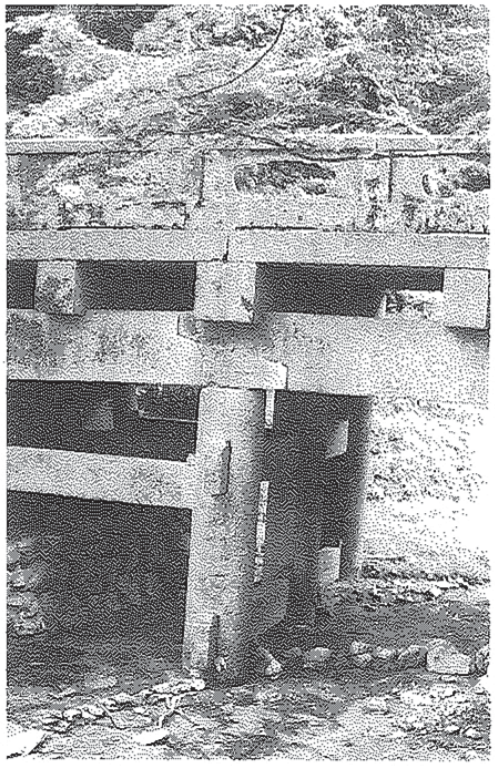
庫裡の前に放生池があり、そのかたわらに小型ですが宝篋印塔があります。寛永（江戸時代初期）の銘をもち、軒上を九段に作る珍しいもので、住職の供養塔です。

宝篋印塔（浅井町野瀬・大吉寺）

**西近江路**　三井寺から下阪本・和邇・安曇川・今津・海津を経て福井県敦賀へ通じる道です。この街道には日吉大社、比叡山の正倉院といわれる聖衆来迎寺、白鬚神社、その近くにある鵜川四十八体石仏、高島町に入いると、大溝城跡、近藤重蔵の墓、家形石棺を残した鴨稲荷山古墳があります。安曇川周辺は海人の伝説が多く、古代の遺跡も多いところです。琵琶湖北端の海津大崎は湖北第一の景勝、海津から押坂峠をこえ北上すれば敦賀に通じ、有名な三関の一つ愛発関跡があります。

**日吉大社と比叡山**

**〈日吉大社〉**　坂本は日吉大社と延暦寺によって生きてきた町です。大宮川の渓流にかかる日吉三橋は、豊臣秀吉が比叡山を再興したときかけられたものと伝えられ、天正14（1586）年の建造と推定されています。走井橋は勾欄のない簡素なもの、大宮橋は最も構造のしっかりした石橋で、太い円柱状の橋脚3本を4列に立て、貫で固定し、勾欄には角柱を立てています。日吉三橋は建造年代が刻まれていませんが、京都の五条大橋、三条大橋（1587・1589年）より古く、構造から見て日本最古のものです。



石橋（大津市坂本・日吉大社）

また、坂本ケーブルの登り口近くにある慈眼院に13体の丸彫の阿弥陀如来があります。

**〈比叡山〉**　山頂にある

石仏（大津市坂本・慈眼院）

釈迦堂の右から相輪樗へ通じる坂道を登り、熊笹のしげる中を行くと、香炉岡の杉木立の中に大きな石仏があります。比叡山唯一の石仏です。弥勒如来で、高さは２ｍ、多少の破損はありますが、二重の蓮華上にすわっておられ、正面・側面も丸彫に彫られています。右手や首のところで光背との間を彫り抜き、立体化を図っています。顔は満月相で、優美さをただよわせ、光背に11個の梵字が刻まれています。裏面にも、釈迦・文殊・普賢をあらわす梵字があり、その下部に経巻を入れたと思われる穴があります。

石仏（大津市坂本・延暦寺）

**〈西教寺〉**

坂本の集落の北はずれから１kmほどの山すそにあります。

本堂前の納骨堂うらの石垣の上に、近世風の石仏がたくさんならんでいます。阿弥陀二十五菩薩石仏で、阿弥陀如来が二十五菩薩を従えて音楽を奏しつつ来迎されるという教えによって作られたものです。栗太郡の富田民部進という人が、むすめの極楽往生のため、天正12(1584)年に造立したものです。それぞれの石仏が楽器をたずさえている姿はまことに美しいものです。

墓地の入口に立つ六地蔵石仏は天文19(1550)年の造立、また墓地の中にはおびただしい墓塔があり、室町時代に建てられた一石五輪塔が多くあります。

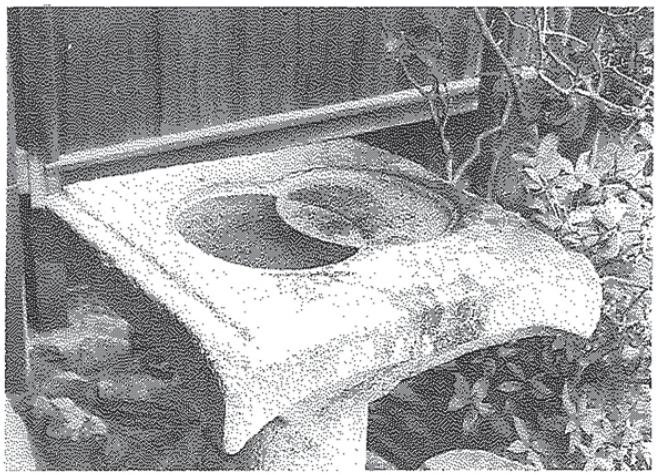
石仏（大津市坂本・西教寺）

**〈聖衆来迎寺〉**　庭園は桃山時代の作庭といわれ、その一隅に月見手水鉢があります。1.3ｍの四角な形で、鎌倉時代の宝塔の笠を裏返したもので、上面に二つ円形を組みあわせ、一方を深く、他方を浅く彫りこんでいます。墓石が実用品に転用されたものです。

本堂前、塀ぎわの仮屋の中にある弥陀三尊石仏は、本尊の如来と両脇侍の他、下方に小さい如来像を彫出しています。鎌倉時代末期のもので、もとは西近江路にあったものを移転しました。

その他、墓地に年代のわかる五輪塔や笠塔婆があり、石造文化財が多くあります。

**志賀・高島から海津へ**



手水鉢（大津市比叡辻・聖衆来迎寺）

**〈樹下神社〉**　北小松にある樹下神社の拝殿南にある宝篋印塔は文和５(1356)年の在銘で、完存した石造文化財です。基礎は近江式といわれる壇上積式の構造になって、四面とも開花蓮華の文様を中央に彫出しています。塔身には四仏の尊像をつくり、笠の隅飾りには、円(まる)い輪郭を浮彫りにした月輪(がちりん)を作り出し、まことに美しい石塔です。

本殿の裏に宝塔二基が並んで立っています。二基とも年代が刻まれていませんが、右は鎌倉後期のもの、左はそれよりさらに古いとされています。

宝篋印塔（志賀町北小松・樹下神社）

**〈田中神社と玉泉寺〉**　安曇川町田中にある田中神社に四基の石塔が並んでいます。宝塔、寄せ集め塔、宝篋印塔、宝塔の残欠で、完存品がないのが残念です。宝篋印塔には永仁２(1294)年の古い年代が刻まれているのが貴重な資料です。(県下で４番目です。)

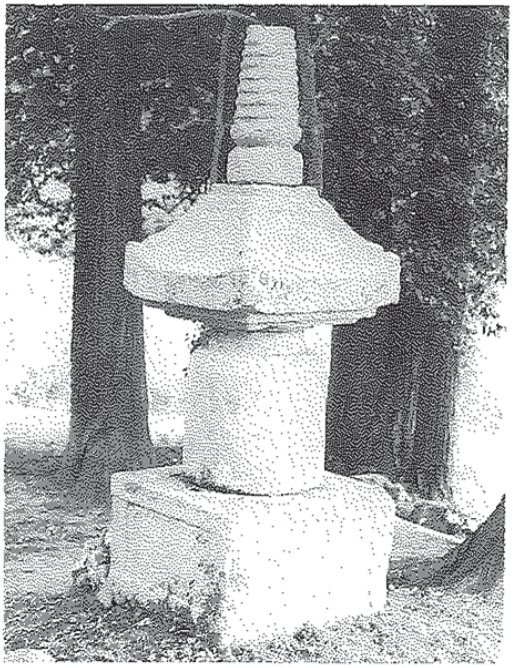
田中神社のやや南にある玉泉寺には、層塔と宝塔があります。層塔は現在五層の笠を重ねていますが、本来は七重塔でした。構造様式から見て、鎌倉中期のものと推定されます。湖西には珍しい層塔です。

**〈新旭町とマキノ町〉**　新旭町新庄の大善寺宝塔、太田神社の石燈籠、針江の石津寺にある宝塔、旭の森神社の宝塔など多くのものが見られます。また、マキノ町上開田の称念寺の宝塔は鎌倉時代後期のものです。

層塔（安曇川町田中・玉泉寺）

湖西路には他地域と比べ宝塔が多く見られ、石造文化の中心といわれる湖東と著しいちがいを見せています。恐らく比叡山信仰の影響を強くうけているのでしょう。

（池内順一郎氏提供）



宝塔（マキノ町上開田・称念寺）